



# 演者と巡る世阿弥

お話・謡 味方玄 (観世流シテ方) お話・小鼓 久田舜一郎 (大倉流小鼓方)

世阿弥の出自や生涯、業績をたどり、そのゆかりの地もめぐる講座です。毎回世阿弥に関連した曲を取り上げ、訪れた現地にて、講師お二方に演者の立場から、実演もふくめたわかりやすい解説をうかがいます。

◆前後期、年二回のペースで開講し、継続の予定です。前期講座では世阿弥にゆかりのある現地を訪ね、後期には生駒山宝山寺を訪れて、特別に寺所蔵の貴重な世阿弥関連文書を間近に拝見させていただきます。

第二十五回 2025年 7月12日 (土)

## 世阿弥と興福寺薪猿楽

■受講料 一般 4,600円 アカデミー会員 4,200円 (資料費・保険料込)

\*公共交通機関交通費各自負担。食事代・拝観料・奉納演奏志納料は別途当日徴収させていただきます。  
\*行程などの詳細は確定後ホームページでご案内



世阿弥は大和猿楽四座の一つ、結崎座の観阿弥の子として大和国、現在の奈良県磯城群川西町結崎に生まれる(1363年頃)。当時大和には興福寺薪猿楽・多武峰妙楽寺八講猿楽・春日若宮おん祭猿楽に参勤して「翁」を演じる結崎・外山・坂戸・円満井の四座があり、この三大神事に際して四座に加わる形で神事芸能を行うのが、後の観世・宝生・金剛・金春の出発点となる。中でも絶大な勢力を聖俗両界に及ぼした興福寺と強く結ばれたことは、猿楽が発展する重要な要素となった。現在の薪能の起源となる興福寺薪猿楽は、西金堂(焼失)と東金堂での修二会に付随する神事として始まるが、その後南大門前に場所を移し、能として独立した形で完成されてゆく。世阿弥は薪猿楽に参勤するほか、応永元年(1394)の足利義満春日参詣の折には将軍宿所であった興福寺塔頭一乗院で演能するなど、興福寺との縁は深い。世阿弥の出自を語るに、故郷奈良は欠かせないが、十代後半から生涯の大半を京都で過ごした世阿弥が、60歳を過ぎてから奈良を舞台とする能を次々と世に出していることも興味深い。世阿弥演能の原点ともいえる興福寺薪猿楽や、世阿弥作とされる奈良を舞台とした曲(「野守」「采女」)を振り返り、世阿弥が故郷奈良にどのような思いを抱き、語っていたかを偲ぶ。

### ◆講師紹介◆



味方玄 (観世流シテ方)

父、味方健、片山幽雪、十世片山九郎右衛門に師事。KBS京都テレビ「能三昧」監修・演出・出演。2003年新作能「待月」を制作し、脚本・演出・シテを勤める。青嶂会他、独自の舞台世界創作のためテアトル・ノウを主宰。初回1996年、京都の十念寺における、蠟燭や篝火の光や風も効果的に演出された古風な形の能が好評を博す。近著に『能へのいざない』など。2004年京都府文化奨励賞、2022年「観世寿夫記念法政大学能楽賞」、2023年「京都府文化賞功労賞」など受賞。重要無形文化財総合指定保持者。



久田舜一郎 (大倉流小鼓)

1961年大倉流宗家・故大倉長十郎師に入門。京阪神を中心に能楽五流の舞台に出演、海外公演参加多数。異ジャンルの音楽とのセッションなど、能の現代性を追及する試みも積極的に行う。長女陽春子も女性では珍しい大倉流小鼓方として活躍中。1998年日本文化芸術奨励賞受賞。2011年兵庫県文化功労表彰、神戸文化活動功労賞受賞。2017年兵庫県文化賞受賞。重要無形文化財総合指定保持者。西宮在住。

\* 10:00頃近鉄大阪線「奈良」駅集合、現地でお話・演奏をお聴きした後、昼食をはさんで14:30頃解散予定。詳細は開催日約一カ月前に申込者にご案内。  
\* 講座の一環として、先生方を囲んでのお食事(約3,000円)をご用意しています。こちらは当方でご手配します。

当講座の詳細・お申込みはこちらをスキャン →



←白鷹緑水苑文化アカデミー詳細・会員について・講座一覧について



白鷹緑水苑

〒662-0926 兵庫県西宮市鞍掛町5-1  
TEL0798-39-0235 FAX0798-39-0236  
E-mail: rokusuien@hakutaka.jp  
URL: https://hakutaka.jp/shop.html

